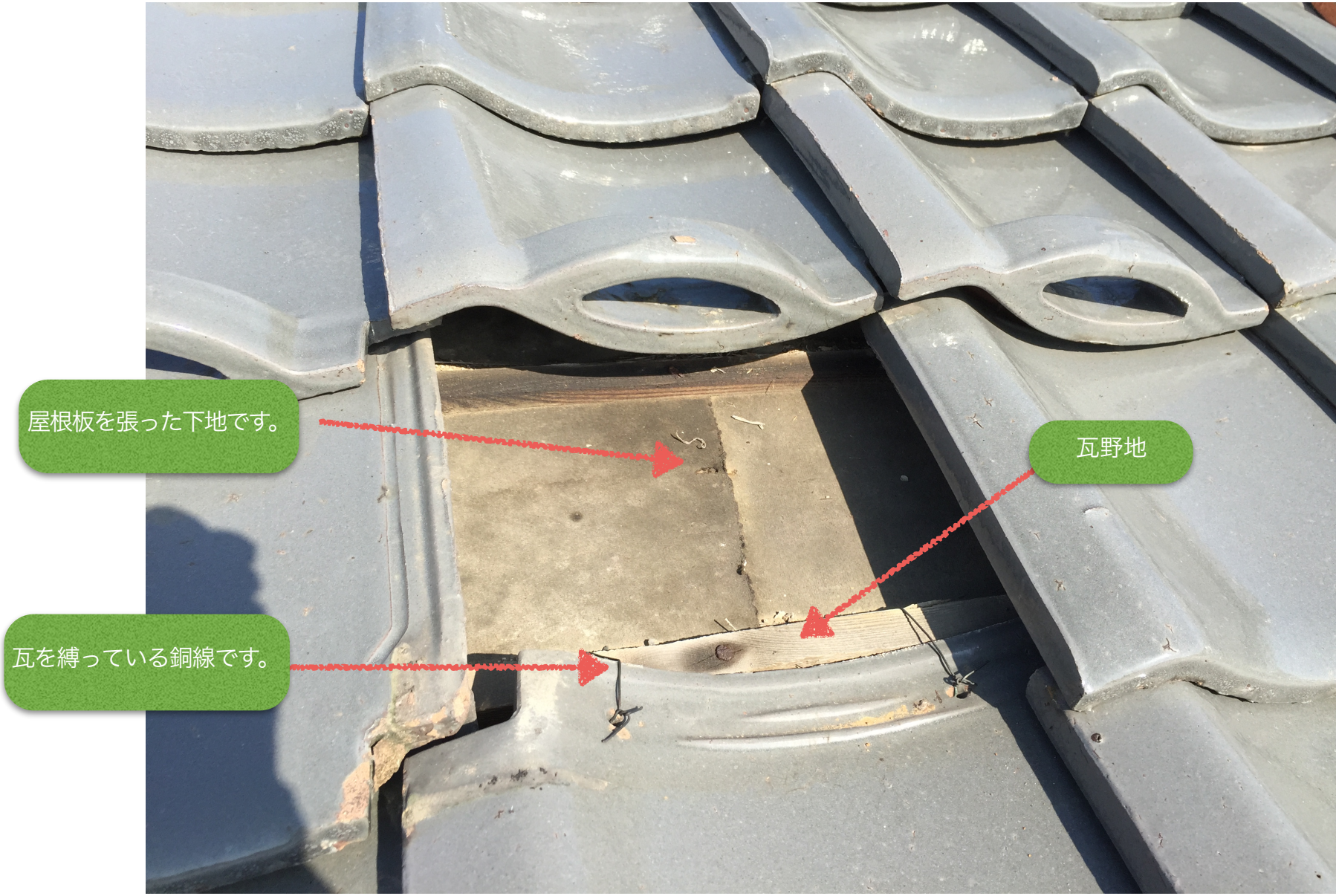
大屋根状況　白しっくいが剥がれ落ち、隅棟ののし瓦が出てきています。

大屋根後ろ側状況　後ろ側の隅棟もかべ土が痛みのし瓦が出てきています。

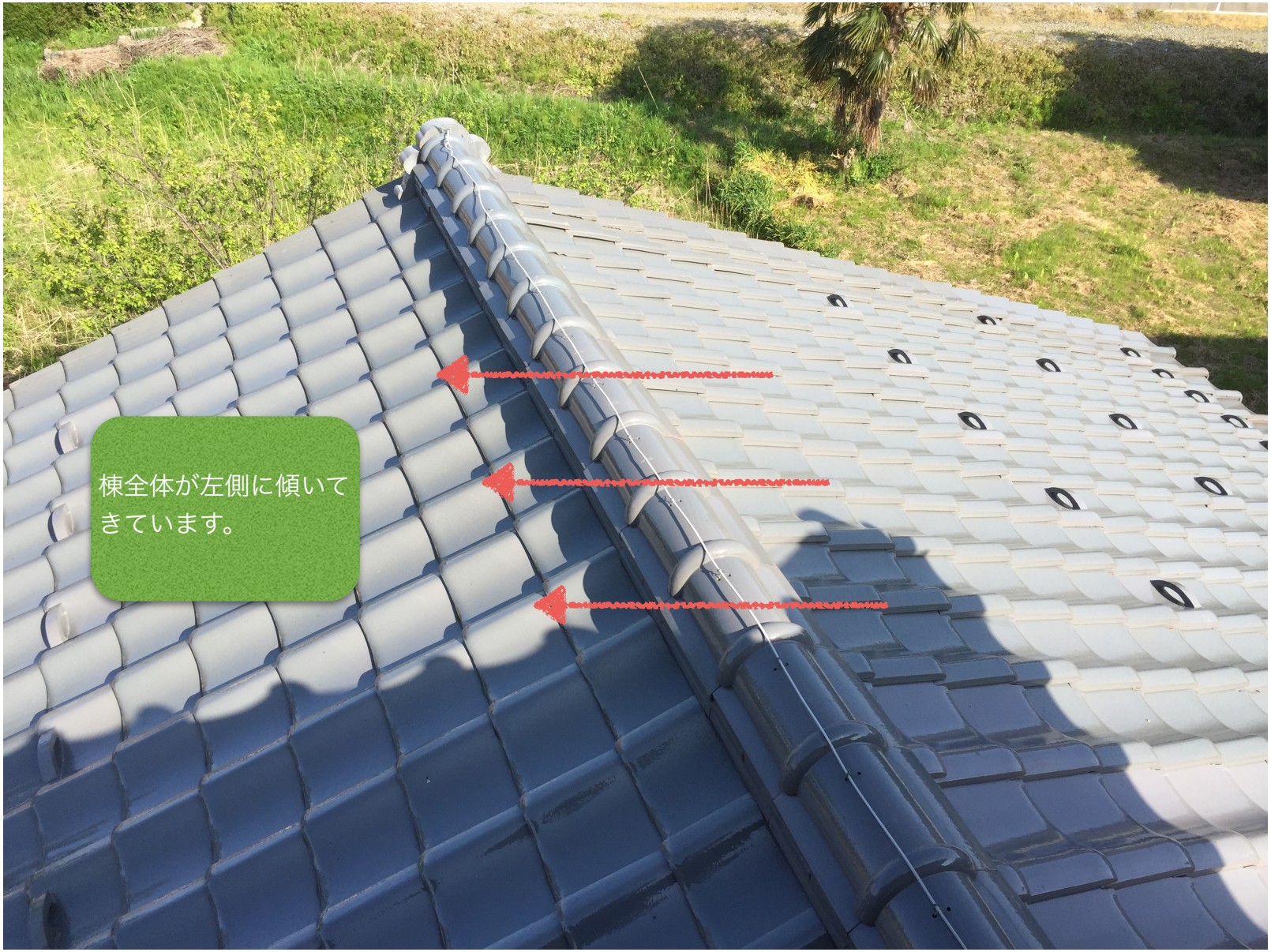
大屋根隅棟状況

大屋根隅棟　のし瓦が一枚抜け落ちています。

下屋正面側棟状況　のし瓦をつなぎ止めているかべ土が風化してきており、のし瓦が抜け落ちそうになってきています。




大屋根瓦下地状況　屋根板は程度良好です。瓦を縛っている銅線はところどころ切れているような状態です。瓦野地（銅線を縛る木材）は経年劣化により腐敗が見受けられます。




下屋後ろ側棟状況　のし瓦と丸冠が全体的に左に傾いてきています。

下屋平瓦部分状況

下屋平瓦部分状況

[redacted]邸屋根現状説明

　大屋根、下屋共に棟及び隅棟が傷んでいます。棟瓦を固定しているかべ土が風化しており役目を果たせていない状況です。ところどころでのし瓦が抜け落ち、白しっくいも剥がれてきています。屋根の下地を見たところ、屋根板は年数経過の割に丈夫です。ただし、瓦繋ぎ銅線と瓦野地の腐食が見受けられます。
　今回の御見積りでは3種類の内容をご用意させて頂きました。

パターン①大屋根と下屋の棟を直した場合
パターン②大屋根を葺き替え、下屋の棟を直した場合
パターン③大屋根、下屋を葺き替えした場合（下屋の後ろ側の増築部は比較的新しいので葺き替えせず、棟直しのみとします。）

　[redacted]のお宅は大屋根が寄棟という形の屋根でありまして、棟の長さが長い屋根です。棟直しのみの工事をされると割高感の感じる内容になり、葺き替え工事も視野に入ってくるような値段差になってきますので、葺き替え工事も含めた3種類の御見積り内容をご用意させて頂きました。

　ここ近年、集中豪雨や大雪、強風など異常気象と呼ばれるような現象が多く起きています。特に集中豪雨は短時間で多くの降水量をもたらし、雨水の屋根の中への流水など屋根瓦に大きな影響を与えています。また、ここ北陸の重く湿った雪は雪解け時に棟の瓦をずらします。そんな過酷な気象条件の中で、眞田瓦店では安心してお客様に過ごして頂けるように２つの施工内容にこだわりを持って提案させて頂いております。
１，棟・隅棟・壁面葺き止めのかべ土にはなんばんを使用（別紙参照）
２，葺き替え時に屋根下地に張る防水紙は集中豪雨にも耐えられるような高品質なものを使用（別紙参照）

　眞田瓦店では、お客様に安心して住んで頂けるよう20年30年40年後の先をも見据えた施工を提案し、そして心がけております。